

エピソード

「ウォータースライダーや」と言いながら伏見スライダーの上から斜面に水を流し、自分も滑って遊んでいると、楽しそうな姿を見て4歳児もやってきました。それまでは自分が滑る分だけの水を汲んで流していた子ども達でしたが、水を汲んだバケツの取っ手にゴムロープを付け、クレーンのように引っ張り上げると、たくさんの水を早く上に運べることに気がしました。伏見スライダーの上にいるAくんが「下すよ、水入れて」とタライの近くにいるBちゃんに言い、Bちゃんはタライの水をバケツいっぱい汲むと「入ったから引っ張っていいよ」と、Aくんに向かって言いました。引っ張り上げたAくんが優しく水を流すと、4歳児さんは嬉しそうに笑いながら何度も滑ることを楽しんでいます。すると伏見スライダーの下に水が溜まり、4歳児が着地すると水しぶきが上がる楽しさを感じていることに気付いたCくんは「大きい水溜まりにしたらもっと嬉しいと思う」と、水を運ぶ姿も見られました。4歳児はウォータースライダーを滑って水しぶきが上がることを楽しみ、5歳児は水をかけたり運んだりする中で4歳児さんが喜んでくれる嬉しさを感じていました。

子どもの育ちや学び

バケツにゴムロープを付けたら、引っ張り上げられるね(期待)



水入れてー!
(願望)



- ・友達と工夫して汲んだ水を4歳児が滑ろうとするタイミングで流す。
- ・嬉しそうに滑っていく姿が嬉しく、5歳児も喜んで汲んでは流してあげてを繰り返す。

かけてあげるね
(親しみ・思いやり)



- ・水を汲みに降りて、また上ることがじれったく、伏見スライダーの上から水を引っ張り上げれば早く、たくさんの水を運べることに気付く。
- ・自分一人ではできないため、下にいる友達に声を掛け、役割を分けて水を汲む。

大きい水たまりにしたら嬉しいかな
(他者の気持ちへの気付き)(ワクワク)

- ・地面に足を付けた時の水しぶきも楽しんでいることに気付き、さらにたくさんの水しぶきが上がるように、水を運んで水たまりを大きくしようとする。
- ・楽しそうな反応が見られることで、やりがいや嬉しさを感じる

保育者の思い

- ・去年、築山でウォータースライダーをして面白かった経験を思い出し、場所が変わっても同じ様に楽しんでいるのかなと思いました。
- ・4歳児が「水をかけてほしい」と言ったわけでもありませんし、5歳児も「ありがとうって言って」と言うわけでもありません。水をかけてあげたり水しぶきがあがったりすると喜んでくれるかな?と考えて行動する姿や、嬉そうな笑顔を見て自分の心も満たされる、異年齢児を思いやる気持ちを大切にしたいと思いました。

家庭だったら・・・

同年代の友達とだと、ストレートに自分の気持ちを表現することが多いですが、自分より小さな友達には優しく接したり相手を思いやろうとしたりする姿が見られます。自分達がお兄さんお姉さんに優しくしてもらった経験や、普段からお家の人に大切にされていることが繋がっているんだなと感じます。